

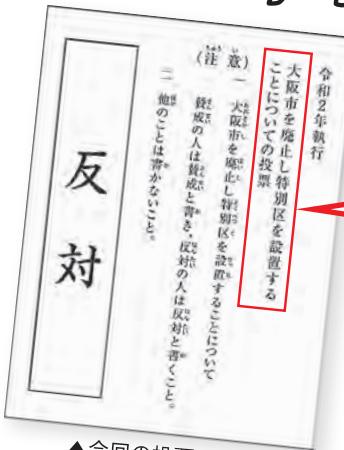


なぜ  
口ごもる

# 「大阪市廃止」を



大阪市を廃止し特別区を設置することについての投票



▲今回の投票用紙

住民投票の最大の焦点は「大阪市廃止」の是非です。

今回の投票用紙には「大阪市を廃止し、特別区を設置することに」賛成、反対?と明記されました。

区役所にも「行こう! 投票 大阪市廃止・特別区設置住民投票」と垂れ幕をかけています。

ところが松井一郎市長は、テレビ討論でも「大阪市廃止」を口ごもります。投票用紙にも「大阪市役所の廃止」と書いてほしいと求めたものの、市選管から却下されました。維新の分厚いパンフレットのどこにも「大阪市廃止」の5文字はありません。

よほど「大阪市廃止」が知られると困るのでしょうか?



▲区役所にかかる垂れ幕

## 大阪市役所は維新の“中之島出張所”?!

維新のビルで驚くのは「疑問に答えます」として電話番号をのせていますが、維新の本部ではなく、大阪市役所! ビルには「大阪市の職員が丁寧にお答えいたします」! 維新では疑問に答えられないのでしょうか。大阪市の職員を「市民の奉仕者」ではなく「維新の奉仕者」に仕立てるのは言語道断です。



維新の会ビル

江戸時代の大坂を「天下の台所」と称したのは、明治末期、大阪市史編纂係主任であつた寺田成友です。それを関一市长や小中学校の教科書を通じて広く流布します(平田達治『歩く大阪・読む大阪』)。「出船千艘入船千艘」「天下の貨七分は浪華にあり、浪華の貨七分は舟中にあり」の言葉が示す通り、大坂は水運に恵まれた立地条件も生かし、日本諸国の物資流通の中心地でした。堂島米市場と天満青物市場、雜喉場(ざこば)魚市場が賑わい、「天下の台所」をさせました。

いま「商都大阪」が消費税増税と新型コロナ禍の直撃を受けています。賑わいを取り戻す決め手は庶民の懐を温めること。住民サービスを低下させる「大阪市廃止」は逆行以外の何ものでもありません。

天満青物市場跡..市場は大川の右岸、天神橋と天満橋の間の八軒家浜の対岸で栄えました。



## 天下の台所

大阪市今昔物語 4